

未来を開く

長井市立長井北中学校

No86 令和4年 3月11日

あの日を忘れない! 「思い」をつなぐ

～3. 11東日本大震災から11年 記憶を風化させてはならない～

平成23年3月11日、午後2時46分。突如襲った大地震。岩手・宮城・福島3県で、死者15,900名 行方不明者2,523名 計18,423名の人的被害が確認されている。

(令和4年2月10日現在 警察庁発表)

早いもので、あの時からもう11年たちます。

揺れの激しさに恐れおののき、足がすくんだあの日。押し寄せる津波のテレビ映像に、息を飲むしかなかったあの日。親戚や友人達の安否が気になりつつ、連絡も取れず呆然としたあの日。



本校では、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、決して忘れず、「今なお被災地で苦勞されている方々へ何が出来るか・何をしなければならぬか」を考え、亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、全校生で黙とうを捧げました。

そして、東日本大震災の復興のために、震災直後現地に赴かれた方

をお招きし、zoomによる講演をお聞きました。

◇講師◇西置賜行政組合消防署 第2課 主幹 梅津禎和 様 よしかず
◇期日◇令和4年3月11日(金)



左:被災地で支援活動にあたる山形県の消防職員の方々



右:津波による甚大な被害状況の様子



左:画面に見入る生徒の様子
下:菅野史華さんがお礼の言葉を述べました



「地震や土砂崩れなどの、自然災害を無くすことはできません。しかし、その被害を無くすことはできます。そのために、「命」を守ることを他人任せにしないこと、「どう行動すべきか」自分で判断することを日頃から心がけること、を大事にして生活してください。」と、梅津さんから全校生にアドバイスがありました。

男女共生社会をめざして！！



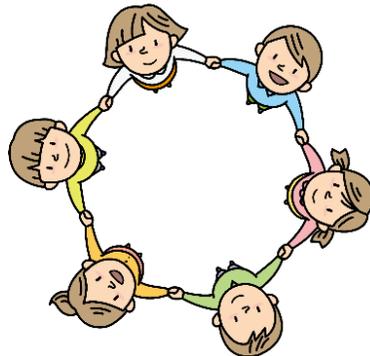
人間には、男性と女性という身体的な性差（生物学的性別）が存在します。そして、社会生活をする中で男性・女性それぞれが、いろいろな役割を担ってきました。『ないたあかおに』の著者浜田広介先生は、「強くやさしく 男の子、

やさしく強く 女の子」と記されています。男性と女性の共生社会について、見事な表現をしたものだなあと感心してしまいます。

かねてから、日本では男性と女性に求められる様相を、いわゆる「男らしさ」「女らしさ」と表現し、例えば「男の子は青、女の子は赤」「お父さんは外で働き、お母さんは家で家事をする。」という概念が形成されていました。このような、差別的な行動や考え方を、昨今では『ジェンダー』と呼んでいます。今、性別による差別や不平等をなくし、男女が互いにその人権を尊重しつつ、責任も分かち合い、「ジェンダーの平等」を達成しようとする動き『ジェンダーフリー』への取り組みが、世界的に広まっています。

「男だから」「女だから」と差別を受けたり、社会の中で活躍する機会が少なくなることは問題であり、その課題解決を図らなければならないと指摘されているのです。

本校では、今まで出席番号の基本になる名簿は、男女別に作成していました。そ



こで、ジェンダーフリーの視点に立ち、令和4年度から、男女混合で名簿を作成することとします。つまり、男女の別なく名字を五十音順に並べ、出席番号を決定します。

3月10日（木）、学校長が1・2年生を対象に全校集会でその趣旨について話をしました。山形県の公立高等学校全校では、すでに取り組みられています。当初は戸惑うこともあるかもしれませんが、「これが普通」と感じるのが、ジェンダーフリーの第一歩と考えます。

◆男女混合◆

- 1 出席簿と健康観察簿の並び順
- 2 昇降口の下足箱
- 3 廊下のフック
- 4 教室のロッカー
- 5 教室内の座席（学習内容や教科によって変わる場合もあります）
- 6 全校朝会・集会の整列隊形

◇男女別◇

- 着替えの場所
- 健康診断や身体測定の時
- その他必要な場合

学校の名簿（男女別）

男子		女子	
No	名前	No	名前
1	男子A	1	女子A
2	男子B	2	女子B
3	男子C	3	女子C
4	男子D	4	女子D
5	男子E	5	女子E

学校の名簿（男女混合）

No	名前	No	名前
1	女子A	6	男子C
2	男子A	7	女子D
3	男子B	8	男子D
4	女子B	9	女子E
5	女子C	10	男子E

